

国際連帯の新たな発展へ！

広島連帯ユニオン

2013

11・9～14

訪韓闘争報告

(ソウル→大邱)



11月9日～14日、広島連帯ユニオン訪韓団は動労千葉訪韓団と共に訪韓闘争を行いました。今回の訪韓は動労千葉訪韓団の一員としての国際連帯闘争を闘うと共に、広島連帯ユニオンとしての独自の新たな挑戦として大邱の闘う労働組合との交流を目的として12日から大邱への訪問を行いました。

5泊6日の日程で、労働者大会とその前夜の非正規職撤廃大会への参加、8つの闘争現場・労組と交戦というきわめてハードなスケジュールでしたが、6日間の過程で広島連帯ユニオンとして国際連帯の巨大な一歩を切り開くことができました。

訪韓闘争を通して私たちがつかんだことは、日本でも韓国でも労働者は全く同じ攻撃に直面し、全く同じ課題で苦闘しているということでした。

それは全産別における民営化・外注化・非正規職化攻撃であり、解雇自由・9割非正規化の攻撃であり、そのための闘う労働組合圧殺の攻撃です。韓国パククネ政権は全教組・公務員労組に対して「解雇者を組合から排除せよ」ということをつきつけ、これに応じなければ組合を法的に認めないという攻撃をかけてきています。これは、日本の国鉄闘争において2010年4・9政治和解で「不当解雇について二度と争わない」ことを労働組合に認めさせ、被解雇者を組合から排除した攻撃と全く同じ労働組合圧殺攻撃です。したがって11・10の5万人の民主労総労働者大会において委員長が労組設立申請書を破り捨て「民主労総は法の枠の中ではなく、80万組合員の中に、1700万労働者階級の中に残る」と宣言したことと、動労千葉と4人の闘争団員が和解を拒否し、国鉄闘争全国運動を立ち上げてきたことは全く同じ闘いをやっているということを確認しました。

いまや日本でも韓国でも労働者の約半数を占める非正規職労働者をどのように組織化し、非正規職撤廃の闘いをどうやって勝利させるか。この問題での路線的な討論は民主労総内部においても激しく行なわれていました。はっきりしたことは公務員労組をめぐる決戦に勝利しなければ、非正規職撤廃闘争の勝利もない。中心的労働組合をつぶされたら、非正規職化はもっと社会全体に広がるということ、逆に公務員労組をめぐる攻防に正規・非正規・産別を超えて団結して対決し勝利することが非正規職労働者の組織化にとっても決定的であること。このことを現場のリーダーたちは自覚し、どうしたらそうした路線で現場労働者と一致して闘いを進めることができるかでものすごい苦闘をしていました。

このように、新自由主義の民営化・外注化・非正規職化、そのための労働組合圧殺攻撃に対して全世界の労働者は闘い、同じ苦闘をしているということです。

国際連帯闘争はついに現場と現場が結びつき、現場の同じ苦闘を共有しながら、共に前進していくという新たな段階に突入しました。

国際連帯闘争でつかんだ「これでいける！」という闘いの路線を鮮明にし、圧倒的な組織拡大を実現しよう！

■訪韓日誌（現地からのメール）

11月9日（土）

広島出発→博多港→ビートルで釜山→KTXでソウルへ

●11.09 10:00 壹貫田

無事、博多港を出発しました。夕方にはソウルです。今日は、非正規職撤廃全国労働者大会がヨイド公園で開催されます。雨が心配です。現地で使える wi-fi 端末を GET しましたので、メールは結構使えるハズです。行ってみないとわかりませんが^_^;



釜山港近くを船から。希望バスで有名になった韓進重工業クレーンが見える。右は釜山港

民主労総 非正規職撤廃全国労働者大会

●11.09 20:20 宮原

前夜祭（※）に少し遅れて合流しました。少し小雨です。

サムソンの闘う仲間が 10月31日に労組弾圧に抗議して自決されたそうです。大会は怒りと追悼のムードです。

※前夜祭ではなくて非正規職撤廃全国労働者大会でした。



11月10日（日）

サムソン電子への抗議行動→全国労働者大会・デモ

●11.10 10:50 壹貫田

今サムスン前、先日自決した労働者の追悼集会に、デモ行進で向かっている。
みな遺影を掲げてデモ行進。



●11.10 15:24 宮原

チョンテイル烈士遺志継承労働者大会に参加しています。

人、人、人。朝からソウルの街全体で各産別のデモや集会が行なわれ、昼からソウル市庁舎前に結集。数万の結集と思います。



●11.10 17:30 宮原

ダッシュを含むデモ、いまチョンテイル烈士像近くと思います。

車線を全て占拠。前方では警察の阻止線とやりあっているそうです。



●11.11 08:27 壹貫田

昨日は労働者大会、そして、釜山の緑山工業団地で地域合同労組を組織しているシンさんとの交流（超重要）で、充実した1日でした。大会の様子はレイバーネットに日本語訳があります。

http://www.labornetip.org/worldnews/korea/knews/00_2013/1384116591799Staff

労組申請書を破るパフォーマンスはこの記事を読んでわかりました^_^。「民主労総は法の枠の中に残らない、その代わりに民主労総は 80 万組合員 の胸の中に、1700 万労働者の胸の中に残る」と、申請書を破り捨てると会場のもみんなも同じようになりました。5 万人の一体感がすごいですね。また、委員長（だと思ふ）が集会中ずっと演壇で司会をしていたことに、この集会の重要性が現れています。



民主労総シンスン Chol 委員長。労働者大会はステージや各方向の大画面で発言者も良く見えるように工夫されている。

委員長が司会というのはまちがってますね。顔が覚えられない m(._.)m。今日は『私たちが見えますか』の大学へ行きます。午後から理念交流。



緑山工団労組 シンさんと交流

11月11日(月)

弘益大学非正規職支会との現場交流→ソウル本部で理念交流会→大邱へ

●11.11 17:30 宮原

今日は午前中『私たちが見えますか?』の弘益大学非正規職支会を訪問。交流しました。

本に出てきた人たちが勢ぞろいでこちらにも感激。とても歓迎されてプテチゲをご馳走になりました。

本当にどこにでもいるような普通のおばちゃんたちが自分たちで労働組合を作り、闘って勝利したことが伝わり、とても有意義な交流会でした。支会長のイルソッキさんも最初は家族から離婚しようと言われましたが闘いに勝利することで夫も獲得したことが話されました。



弘益大学の入口



支会事務所内のホワイトボード「分訓 透明性 公正性」「粉骨碎身」



『私たちが見えますか?』を見せながら、广大生協労組の闘いを報告する壹貫田書記長（广大生協労組委員長）

午後からはソウル本部で理念交流会。田中委員長の分民と外注化阻止闘争の報告。日本においてどのように民営化が正当化されたのか？いま様々な問題が出るなかでどのように国民的議論がなされているかが質問されました。

そのあと公務員労組と医療労組から闘争報告がなされました。

いま大邱行き。ソウル駅出発です。

●11.11 16:15 壹貫田

理念交流会

田中委員長の報告が終わりました。サービス部門労組から、(政府は)分民の社会的コンセンサスはどやって作ったのか？と質問。中曽根が「日露戦争以来」というほどマスコミが協力し国鉄労働者をたたいた。これに組合が立ち上がらなかったのが問題、反対があれば違った結果に。

投機資本センターのホンさん？から、イギリスのように鉄道の再国営化は？と質問。再国有化の声は小さい。連合が民営化に賛成しているから、より良い民営化に。しかし、30年たって分民で良くなると言ったのと、全く逆のことが起きている。この点での総括重要。といったような討論になっています。

途中で抜けて大邱へ向かいます。



民主労総ソウル本部の建物。本部入り口にサムソン電子サービス支会のチェジョンボム烈士の遺影が。



理念交流会

11月12日(火)

民主労総亀尾(クミ) KEC支会訪問→慶北大学で原発問題で報告→民主労総大邱地域本部を訪問



KTXが停まる東大邱駅



KTXには改札がなく「あなたを信じています」と書かれている。

●11.12 壹貫田

亀尾KECでは、昼休みにユニオン旗と横断幕をひろげ、昼食に出てくる労働者を出迎え。労働歌を毎日昼休みに放送するそうで、大きなスピーカーを出してならしていました。民主労総の組合員は組合のベストをつけて昼食に。



KEC亀尾工場と第一組合の窓から見た第二組合(会社側組合)の事務所。ちょうど真正面に位置している。



支会の執行部の方と懇談会 会社側の組合破壊の具体的な手口と闘いかたを学びました。団結しゃもじを贈呈



昼休みに組合事務所前で組合員の激励。第二組合の事務所に向かって工場中に響き渡る大音量で労働歌を流す。

午後からは慶北大学に戻り、壹貫田が報告しました。夕食を大急ぎで食べ、20時から大邱地域本部へ。役員選挙で忙しい中、貴重な時間を割いての討論を行いました。大邱本部長からは「日本からの訪問は始めてです。労働者大会で韓国の労働者を怒りを感じたと思います。日本の労働者の怒りも同じだと思います」とあいさつ。日本からは、宮原青年部長と動労西日本山田書記長が報告。



慶北大学での報告 「広島における反核・反原発運動と被曝労働阻止の労働組合の闘い」



民主労総大邱地域本部



大邱地域本部での討論会

大邱からは、鉄道労組の組合員で、2009年民営化反対デモで解雇された方から、「構造調整」によるJRと同じような合理化・安全破壊の実態を報告。12月13日にストを予定している。非正規職局長は、低賃金、解雇不安、派遣労働、

特殊労働者、移民労働者の問題をかかえていることを報告。11月日には教育の非正規労働者がストライキ。日本と同じような問題に直面していると感じました。休憩後討論に入ります。

●11.13 11:00 宮原

昨日は午前中 KEC 亀尾支会を訪問し、午後は慶北大学で原発と非正規問題の講座、夜は民主労総大邱地域本部との討論会でした。

大邱地域本部との討論会では宮原が広島における青年労働者の組織化、動労西日本の山田くんから契約社員制度撤廃の闘いが報告され、地域本部からは主席副本部長のイジェシクさん（鉄道労組の被解雇者）から鉄道民営化攻撃の現状についての報告、非正規職局長のパクキウンさんから非正規職の現状と大邱での闘いの報告がされました。

討論では鉄道民営化を巡って具体的に現場でどういう攻撃が起きているか。例えばキセルの摘発で人事考課の点数になるために、競い合って摘発をすることが起きていること、また大邱での列車衝突事故で全く教育のなされていない車掌をつけたために非常コックの開け方も分からなかったということが報告。非正規職の組織化で全教組、公務員労組などが非正規職の組織化にあまり取り組めていないこと、非正規職教員の組織化でも全国的に統一した組織化ができていないことなどかなり現場のリアルな苦闘が共有されました。

その後地域本部の目の前の居酒屋で交流会をやったのですが、一人、日本語がペラペラなコンさんという方がおられ重要な議論と親交ができました。その点はまた後ほど。



動労千葉物販をおみやげに贈呈



大邱地域本部の皆さんと交流会

11月13日（水）慶北大学付属病院の被解雇者訪問→大邱建設労組の高空籠城現場を訪問→城西工団労組訪問→慶北大学で報告



慶北大学正門



大邱地下鉄の火災事故現場訪問。駅員はおらず、運転手が見えるようにミラーが付けられているのみ。

今大邱市内を散歩。2・28 学生行動記念公園に来ています。以下はその説明

1960 年 2 月 28 日、自由党の独裁に対抗して憤然と立ち上がった大邱市内の高校生たちの尊い精神を称えるため、旧中央小学校の跡地に造成された。青少年広場、噴水、散歩道、小川、ベンチなどがある都心の憩いの場で、青少年や市民たちの 休憩空間となっている。

国債報償運動記念公園とともに、大邱市民の心意気が生きている公園である。2.28 は 2.28 学生民主義挙を意味する。腐敗した自由党政権に対抗して大邱にて最初に起きた学生民主義挙であり、この民主運動により 4.19 義挙と「李承晩」大統領の下野につながった意味が非常に深い学生民主義挙運動である。

●11.13 20:00 壹貫田

今日は、午前中少しウォームアップして、慶北大学付属病院の被解雇者を訪問。駐車場にテントを張って輪番で座り込みをやっていました。床はオンドルみたいにしてすごく暖かいです。職員食堂の前で 20 人くらいがメッセージボードを掲げ解雇撤回を訴えていました。昼ごはんは通訳なし、結局英語でした。

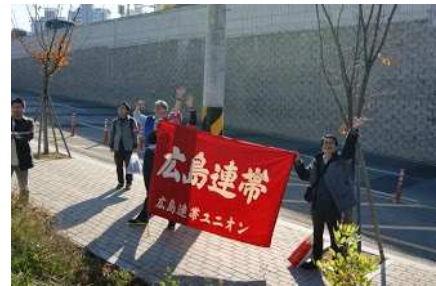


慶北大学付属病院駐車場にある被解雇者テント。写真手前お二人が非解雇者当該。奥の男性が今回の訪韓を支えてくれた慶北大学非常勤講師のイム先生。



大学病院内の調理場と食堂の前でのピケに参加 労組のベストを頂きました

そのあと、クレーンで高空籠城している現場を訪問。スマホのテレビ電話で上の3人と連帯を深めました。そのあといよいよ城西工団労組へ。6万人の工業団地全体を一つの一般労組として、中小零細の非正規労働者や外国人労働者の組織化に、無料診療や語学教育なども行っています。来年の8・6にはぜひ広島にきて欲しいとおもいます。



大邱建設労組の高空籠城現場訪問。請負とされて労働基本権が保障されていないことと闘っている。大声で激励。



城西工団労組訪問。討論会には外国人移住労働者も参加。 ↑ 委員長のイムさん(左)

今、広大院生の報告です。最後のスケジュールです。大変中身の濃い訪韓でした。通訳やセッティングで尽力していただいた広大の李先生と慶北大のイム先生に大感謝です。

■韓国からの報告（11月11日夜 宮原 KTXの中で）

いま理念交流会を途中で抜けていまからいよいよ大邱に出発です。

2時間ほど移動時間があるのでこのへんで中間的な、訪韓でつかんだこと、分かったことなどのまとまった報告をしたいと思います。

まず、民主労総の労働者大会と前夜祭の様子ですが、今回の民主労総の大会は「団結して民主労総を守れ」ということが大きなテーマになっていたと思います。

パククネ政権の労組弾圧攻撃に対して、闘って団結と組織を守ろうということが言われていました。

具体的には、無労組経営を誇ったサムソン電子での労組結成に対して、資本の側の労組破壊攻撃があり、これに対して、抗議自殺が10月31日に起きている。前夜の前夜祭でも彼の追悼ということが強く押し出されていました。

また、最大の焦点は公務員労組と全教組で、これについては今日の理念交流会で公務員労組からの報告があったのですが、公務員労組は政府から労組としての公認を認められずに来ている。それは136人の解雇者が組合員に含まれているからということが理由にされている。そして今回の全教組の労組認定取り消しも解雇者9名が労組員に含まれていることが理由にされている。公務員労組からの報告でも「解雇者を組合から排除することは労働運動の死だ」と述べていたようにこの点が焦点になっている。労働者大会でも公務員労組や全教組、教員の非正規職労組の発言が注目されていました。

こういうなかで、大会では最後の委員長のまとめの発言のなかで「民主労総は法内の立場に固執しない。組合員の中に存在する」というアピールと組合認定申請書を破り捨てるというパフォーマンスがあり、チョンテイル烈士像までの実力デモがあったということです。

この大会を見る上でもう一つ押さえておかなければならないのは、韓国においてこれまで闘うナショナルセンターである民主労総とどちらかといえば御用組合の韓国労総と並んで国民労総という第3勢力が登場してきている。これは完全に政府・財界の肝いりで作られているのだけでも、現場でも第二組合攻撃のようなことがあり、並行して政府などとの交渉でも韓国労総、国民労総が一致すれば主導権がそちらに取られてしまうということが起きている。そのために民主労総としてはなんとかナショナルセンターとしての主流派としての位置を守り抜こうとしているが、ではどうやってその主流派の位置を守るのかを巡って大路線討議が起きているということです。

例えば、昨日、釜山の地域一般労組（ロクサン工団労組）の人と交流するなかで話になったのですが、非正規職撤廃をめぐっても、社内下請け労働者を産別的に組織するべきなのか、特殊雇用（一人親方）労働者を地域的に組織するのかを巡る論争というものがあるらしい。僕らからしたらどっちも重要であってどっちがという話ではないと思うのですが、民主労総全体としては非正規職問題をやらないと労働運動のなかでイニシアチブが取れない

い、という焦りがあり、そのなかで時間との闘いとして組織拡大をどうすすめていくかという問題として論争になっているようで、問題になっているソウル本部の非正規職センターも、結局こうした焦りのなかから出てきている問題だということのようです。

以上が今回の労働者大会をめぐる攻防の背景。

労働者大会とそのものの感想としては、以上のような背景のなかで非常に緊迫した雰囲気の中での大会でした。特に前夜祭でも、大会でも、最後に委員長（結構若い、左派の委員長といわれています）が熱烈的なアピールを行っていることが伝わりました。

そして何といっても烈士像までのデモなのですが、本当に組合員がみな指導部を信頼して主体的に動いている。権力のデモ隊の分断などをどんどん突破していく、烈士像近くでは全車線を占拠して解放区状態のこともありました。そして当たり前のことですがどの労働者も本当に普通の労働者で、そういう普通の労働者が民主労総を守ろう、政府にお願いするのではなくて闘って勝利しようという気概に溢れている。

韓国という国が特別な国というわけではない。街を歩けば文字がハングルなだけであとは日本と何も変わらない。こういうなかで数万の戦闘的労働者の隊列を実現することは全く可能だということが実感できました。

この3日間でいくつか重要な交流をすることができました。

昨日は釜山の緑山（ロクサン）工団労組の専従のシンさんと交流しました。

緑山工業団地は労働者数約3万人の工業団地。うち3割は移住労働者。自動車や造船の部品を製造する中小零細企業が集まっているとのこと。彼は個別企業と闘って個別に労働協約をとるのではなくて地域丸ごとの集団交渉で全体で地域全体の協約をとって行くような闘いをイメージしているとのことだが、組合員の出入りが激しくなかなか大変とのことでした。

工団全体が現代や韓進重工の下請け孫請けという感じで、中小零細といってもそれぞれの企業が有機的なつながりを持っているとのこと。

聞いていて港合同と関生の闘いを足したような闘いをやろうとしているのかなと思いました。

明日会う予定の大邱の城西工団労組も同じような闘いをやっている（城西工団は10万人の労働者が働いている）そうです。

彼自身は自動車工場で組合委員長をやり、そこを解雇されたあと専従として入って13年ということで、年も40台半ばで釜山なら近いし今後とも交流しましょうということで親交を深めました。

もうひとつ、今日の弘益大学非正規職の仲間との交流です。

「私たちが見えますか？」で闘いのおおまかな経緯を知って参加したのでここでの交流はとても有意義でした。

最初にソウルキョンイン地域支部長のパンミョンソクさんが弘益大の闘いの経過を映像

を交えて説明。2011年の全員解雇攻撃に対して、49日間の籠城闘争で勝利したこと、この勝利を引っさげて他の大学の非正規職労働者を組織し統一賃金、統一労働条件、大学による直接雇用を要求して闘っている、さらに他産別の非正規職の組織化に挑戦しているということでした。この辺りは私たちの拠点建設のイメージそのものでものすごい勉強になりました。

ここでも感じたのは本当に普通の労働者、ふつうのおばちゃんたちが闘いに立ち上がり、闘う主体として登場していること。映像でも最初の総長室占拠闘争の場面ではインタビューにたいして手で顔を隠してしゃべっていた人が最後に勝利したのちに「自分を映せ」と言っている。このことに象徴的なように本当にみんな闘いにもものすごい誇りを持っていることを肌で感じました。「闘えば勝てる」「闘わなければ勝つ可能性はない」という言葉を合言葉のように支会長や地域支部長が言っていました。

お昼のプチゲを支会長のイスッキさんと同席したのですが、「私たちが見えますか」で書いてあるように彼女も決して最初から特別な存在だったわけではなく、誰も手を上げないから自分が支会長になった、闘いを始める時は夫から離婚しようと言われた、初めから49日も闘うことは想定していなかったが、大学側の対応があまりにひどいので怒りがあってあそこまでやった。あとはいろんな人が支援してくれたのが大きかったと述べていて、ごく普通の労働者だった彼女が闘いの中で指導部として登場していることが感じ取れました。交流会の最中も常に全体に気を配り、最後にはポッキーをみんなにプレゼント（11月11日はポッキーの日として韓国では結構盛大にやる）。

もうひとつ交流でわかったことは地域支部はまず学生の協力者を組織したということでした。そこはかなり慎重に進めてその学生たちが労働者の実態調査として何度か会って仲良くなる。そのことを水路にして民主労総への組織化をすすめていったということでした。ここで感じられたのは、必ずしも現場からの自然発生的なものだけに依拠するのではなく、地域支部としてかなり戦略的に的を絞って拠点政策を立ててここまで来たということ。この点も非常にまなばされるものがありました。

イスッキさんは東京に娘さんがいるらしく、今後の関係としても重要な交流であったと思います。

特に壹貫田さんが同じ大学で働く非正規職労働者を組織する観点から、連帯のアピールをやったことはかなり決定的だったのではないかと思います。壹貫田さんは「最賃逃れのためにボーナスを時給に組み込む攻撃にたいしてストで闘った。弘益大の闘いに学んでやった。弘益大の闘いは海を超えている」という趣旨の発言をしました。

最後に、昨年11月集会に来てくれた李先生の友人が今回のホテルの手配や弘益大での通訳、私たちの案内などものすごい協力してくれました。同時に、彼女自身、緑山工団労組との交流会に出席して李先生やシンさんとの討論でかなり労働問題について認識を深められたようです（もともとは文化人類学の先生のようなようです）。日本語もかなりできる方なので今後の韓国との関係を作っていく上でかなり決定的な人と知り合えたと思います。

■訪韓闘争を闘って

●広島連帯ユニオン青年部長 宮原亮

まず、今回の訪韓闘争は全教組への労組認定取り消しに見られるパククネ政権による全面的な公務員労働運動圧殺攻撃＝民主労総圧殺攻撃、さらにKTX民営化などの民営化攻撃との正面激突情勢の中での訪韓闘争でした。

大邱地域本部を訪問した際、鉄道労組で闘って解雇された労働者の報告を聞きましたが、鉄道職場ではいま人事考課制度を使った現場労働者の分断攻撃が強まっていること、鉄道事業の外注化攻撃が強まっていることを聞きました。

日本における民営化・外注化攻撃と全く同じ攻撃いまがかけられ、全く同じ苦闘を闘っているということです。

9日、10日の前夜祭と労働者大会はこうした民主労総つぶしの攻撃に対する激しい怒りと緊迫感に満ちた大会として開催されました。

私が大会に参加して感動したのはこうした民主労総の組織を守り抜くという気概が、何か組合幹部だけの確認として行われているのではなく、本当に現場組合員全体の思いとしてあるということです。集会でもデモでもごくごく普通のどこにでもいるような労働者たちが、労組員として主体的に集会に参加し、ときおり駆け足で進むデモを全員が牽引していました。この力こそ民主労総の力の源泉であることを実感できました。

6日間の訪韓で様々な闘争現場を訪問しました。

慶北大学病院での非正規職の解雇撤回闘争の現場を訪問したとき、11ヶ月に渡って敷地内にテントを構え籠城している2人の女性労働者に会いました。昼食を共にしたとき、闘争の様子を聞いたのですが、11ヶ月間、当該2人と支援の仲間で交代でテントを守り続けていること、彼女は子どもが2人いて、闘争のために家のことや子どものことが以前よりできなくなっているけども、子どもには強い母親を見せる必要があると思って闘いを続けていること、いままでの賃金水準の仕事ならいくらでもあるが、モノのように首を切るやり方が許せないから闘っていると述べていました。大邱の高さ50メートルのクレーンに籠城している建設労組を激励したとき、テレビ電話で話しましたが現場は悲壮感など全くなく明るさに満ちていました。

このように、韓国の闘争現場では高空籠城やテントで泊まり込みをしたりと私たちから見るとものすごい大変な闘いをやっています。

しかし、どの闘争現場に言っても、まったく普通のどこにでもいるような労働者が資本の攻撃に対する怒りを土台に生き生きと闘っていることがわかりました。

そしてもう一つ重要だと思うのはどの闘争現場にもかならずゴリつとした活動家が2～3名張り付いているということです。だいたいどの現場も比較的年配の活動家と若い活動家

がセットでいます。民主労総が現場労働者の主体的な怒りと、その闘いを守り抜く活動家集団によって支えられていることを実感しました。

訪韓の最終日に大邱の城西工団一般労組を訪問・交流しました。大邱市西部に位置する城西工業団地は6万人の労働者（うち5000人が外国人移住労働者）が働く工業団地で、主に自動車や造船の2次部品を製造する中小零細企業が密集しているところです。

労組としては6万人全体をひとつの組合として組織し、工団の資本全体と集団交渉ができるような闘いを展望されていました。また、外国人移住労働者の組織化に力をいれていて労組として労働安全のための韓国語教室や、違法滞在者のための無料診療などを行っていました。討論と交流の中で広島連帯ユニオンが被差別部落を組織化しようとしていることなどが議論になり、お互いに有意義な交流となりました。今後の国際連帯の発展にとって非常に重要な訪問となりました。

最後に、今回の訪韓で強く感じたことは「当たり前労働組合」「原則的な労働組合運動」というものです。KTXに乗れば乗務員は民営化反対のバッジやリボンをつけています。サムソンの労働者と居酒屋で一緒になれば制服のうえに追悼のリボンをつけていました。

会社側の第二組合攻撃と闘う KEC 亀尾支会を訪問したとき、昼休みに一緒に横断幕を持って労組員を激励しました。一組の労組員は全員が組合のベストを着ていて、二組と一組の事務所の間を歩いて食堂に入るのですが、第一組合の側からどでかいスピーカーで労働歌を流しながらベストを着ている組合員に手をふっていました。こうした日常的な原則的な闘いが団結を守り、困難な闘いを勝利に導いていること。こうした当たり前の原則的な労働組合活動が民主労総の力となっていることを知りました。

街を歩けばセブンイレブンやマクドナルドといった風景で言葉は違っても風景も人々も日本と何も変わりはありません。韓国で原則的な労働組合運動ができて日本で出来ないことはない。そのことを確信した6日間でした。広島連帯ユニオン、合同一般労組全国協にとってもものすごい力になったと思います。

最後に、今回の訪韓を支えてくれた国鉄闘争全国運動呼びかけ人の李東碩先生と慶北大学のイム先生に感謝したいと思います。（月刊労働運動原稿）

●広島連帯ユニオン書記長 壹貫田康博

11月9日から5泊6日の訪韓闘争は、国鉄決戦を基軸に外注化阻止・非正規職撤廃を職場で闘い抜いた11・3労働者集会の成功と一体で勝ち取られました。

ソウルでの全国労働者大会は、全教組の非合法化やサムソン電子の非正規労働者の抗議自決を受けて、民主労総の組織をあげてのすごい熱気と一体感でした。集会後のデモは、片側車線全部を埋め尽くして喚声のウェーブや駆け足デモを繰り返しながら、チョンテイル烈士像を目指して突き進みます。

これに続く広島連帯ユニオンとしての大邱訪問で、それを可能にする組合活動の一端を見ることができました。また、全国協として訪問した弘益大学での交流は感動的でした。労働者大会で「線を超えよう」とのアピールがありましたが、それを実践してきた労働者の姿がそこにあります。

慶北大学でのシンポジウムでは壹貫田が「広島における反核・反原発運動と被曝労働阻止の労働組合の闘い」、民主労総大邱地域本部での合同討論会では宮原青年部長が「広島における青年労働者の合同労組への組織化」、動労西日本の山田書記長が「崩壊するJR体制と動労千葉・動労総連合の解雇撤回と外注化阻止の闘い」と題してレポートし、意見交換しました。大邱からの発言は、鉄道民営化反対ストや非正規教育労働者のストを前に、パククネ政権との決戦に向かう決意に満ちたものでした。新自由主義攻撃との闘いという点では日本と同じです。日韓の闘いをともに発展させる中に勝利はあります。

また、大邱周辺の労組訪問では、四ヶ所の闘いの現場を訪問しました。KECでは、昼休憩に出てくる労働者を食堂前で横断幕とユニオン旗を掲げて出迎えました。大口径のスピーカーから労働歌が流れる中、組合員は民主労総のベストをつけて食堂へ向います。非正規職の解雇撤回を闘う慶北大学病院でも、駐車場にテントを張って輪番で泊り込み、20名ほどの組合員が職員食堂の前でメッセージボードを持って労働者にアピールしていました。建設労組の3名がクレーンで高空籠城している現場では、スマホのテレビ電話で交歓しました。

城西（ソンソ）工団労組では、それぞれの組合の取り組みを交流しました。6万人規模の工業団地全体をひとつの一般労組として、中小零細企業の非正規職労働者や移住労働者を企業の壁を越えて階級的に組織する闘いに奮闘しています。無料診療や語学教室など、生活レベルの地をほうような地道な闘いの中で組合員が主体的に参加する組織が培われています。広島連帯ユニオンでも拠点建設と並ぶ課題として福島地区での組織化に着手しましたが、学ぶことばかりです。

具体的な連帯が始まりました。闘いの方向は鮮明です。

国鉄決戦に確信を持ち、全国協の団結をさらに打ち固め、自らの職場での闘いに執念を燃やそうではありませんか。多くの皆さんのご支援で非常に中身の濃い訪韓となりました。紙面を借りてお礼を申し上げます。

(労働運動ニュース原稿)

●行程

11月9日（土）

広島駅6:05発—博多駅7:38着、博多港 ビートル10:00発—釜山12:55着、釜山駅15:30発（K T X）—ソウル駅18:09着

- ・民主労総の「非正規職撤廃全国労働者大会参加」（ソウル市 ヨイド公園 19:00開始）
- ・ソウル市内観光（ミョンドン カトリック教会）

10日（日）

- ・ソウル市内観光（光化門、タプコル公園）
- ・サムソン電子抗議闘争
- ・民主労総の「労働者大会」（ソウル市庁舎前 13:00開始）
- ・緑山工団労組 シンさんと交流

11日（月）

- ・弘益大学非正規職支会の訪問（10:00～11:30） 昼食を共にして交流
- ・民主労総ソウル地域本部での「理念交流会」参加（13:00開始）
- ・大邱へ移動 ソウル駅18時発—東大邱駅20時着
- ・慶北大学非常勤講師 元大学非正規職講師労組委員長 イム先生と交流

12日（火）

- ・東大邱駅発—亀尾着（10:00到着）
- ・民主労総 亀尾KEC支会との懇談会（10:30-12:00）
- ・亀尾市内でKEC支会、慶北地域の民主労総の活動家と昼食を共にして交流
- ・慶北大学へ移動（14:00到着）
- ・日韓シンポジウム①：慶北大-広島大〈環境と労働の国際学術大会〉（15:00～18:00）

非正規職撤廃と反原発に向けた大邱・広島の地域運動の模索

（慶北大学社会学部 SS132号室）

- 福島原発事故の日本海地域の反核運動に与えた影響
報告者：노진철（慶北大学社会学科教授）
- 福島事故以降の韓国原発労働者の安全意識
報告者：・・・（慶北大学行政学教授）
- 広島における反核・反原発運動と被曝労働阻止の労働組合の闘い
報告者：壹貫田康博（広島連帯ユニオン執行委員・被爆者青年同盟）

- ・大邱地域本部へタクシーで移動
- ・合同討論会① 地域公共部門の非正規職撤廃運動をどう進めるか

時間：午後7時半～10時、 場所：民主労総大邱地域本部

- 広島における青年労働者の合同労組への組織化
報告者：宮原亮（広島連帯ユニオン青年部長）
 - 国鉄分割・民営化から26年：崩壊するJR体制と動労千葉・動労総連合の解雇撤回と外注化阻止の闘い
報告者：山田和広（動労西日本・山田書記長）
 - 大邱地域本部から
鉄道民営化攻撃の実態と、非正規労働者の組織化の2点で報告
- ・大邱地域本部の皆さんと交流会

13日（水）

- ・大邱市内観光、大邱地下鉄火災事故現場訪問
 - ・公共運輸労組の慶北大学医療連帯分会の訪問（10:30-12:00） 昼食で交流
 - ・大邱建設労組 高空籠城現場訪問
 - ・城西工団労組訪問
合同討論会② 地域労働運動の日韓連帯をどう進めるか 場所：城西公団労組小講堂
 - 広島連帯ユニオンの20年の成果と展望
報告者：吉永博（広島県労働組合交流センター・労働学校講師）
 - 城西公団労組 10年の成果と展望
報告者：・・・（城西公団労組委員長）
 - ・城西工団労組との交流
- （平行して）
- ・日韓シンポジウム②：慶北大政策情報大学院政策情報大学院労使専門課程討論会
非正規職撤廃運動の日韓連帯を構築するためには何が必要か
日時：午後7時～10時、 場所：慶北大 社会学部 SS310号室

14日（木）

東大邱駅発—釜山駅着、釜山港 ビートル14:15発—博多港17:10着
博多駅—広島駅着（21:00頃）